

事務事業名		葛生化石館維持管理事業					評価区分(事前評価・事後評価)			事後評価(A・B表)	
政策体系	基本目標	4	豊かな心を育む教育・文化づくり				担当組織	担当部	教育総務	担当課	葛生化石館
	政策	2	生涯にわたり学びのあるまちづくり				担当係			担当課長名	金原隆徳
	施策	2	歴史・文化資源の継承と芸術・文化活動の推進				新規事業・継続事業		継続事業		
	基本事業	1	地域の歴史・文化の理解の促進				実施計画事業・一般事業		一般事業		
予算科目	短縮コード	会計	款	項	目	予算細事業名					
	14833	一般	10	4	4	葛生化石館維持管理事業					
	事業区分	事業区分		事業区分		事業区分		事業区分		事業区分	
事業計画	単年度繰り返し	事業期間	H14年度～ 年度		根拠法令 条例等	博物館法、佐野市博物館 条例		実施方法		直営	
								事業分類		施設維持管理事業(市主体)	
								リーディングプロジェクト		該当なし	
								市長マニフェスト		該当なし	

1. 事務事業の現状把握【DO】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

① 手段(事務事業の主な活動内容を記入します。)

事業概要(具体的な事務事業の活動内容・進め方)	平成26年度実績(平成26年度に行った主な活動内容)						
葛生化石館の施設を維持管理する。 ・展示室照明器具類維持 ・常設展示動産保険の加入 ・展示室くん蒸及び環境調査業務委託 ・空調及び換気設備保守点検業務の委託 ・山林パト車(市有車)を維持管理する。	・照明器具等の維持管理のための消耗品を購入。 ・常設展示動産保険の加入。 ・年1回のくん蒸実施。(6月18日から19日に空間殺虫、防カビ処理、トラップ設置。8月22日トラップ設置回収。10月8日トラップ回収。 ・展示室空調機器の保守点検(年2回)。 ・山林パト車(市有車)を維持管理する。						
	活動指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(見込)	28年度(見込)	29年度(見込)
	業務委託件数	件	2	2	2	2	2
	保守点検回数	回	2	2	2	2	2

② 対象(この事務事業は誰・何を対象としていますか?)

化石館の施設・設備 収蔵資料 市民及び市外からの入館者	対象指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(見込)	28年度(見込)	29年度(見込)
	施設面積	㎡	571	571	571		
	入館者数	人	24,920	19,738	19,100	19,200	19,300
	収蔵資料数	点	1,744	1,836	1,936	2,036	2,136

③ 意図(この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)

施設・収蔵資料の良好な維持管理を図る。入館者が不都合なく安全に利用する。	成果指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(目標)	28年度(目標)	29年度(目標)
	トラブル件数	件	1	0	0	0	0
	健全な収蔵件数/収蔵資料総数	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

④ 結果(どのような結果に結びつきますか?)

地域の歴史と伝統を知ってもらい、郷土への愛着を育んでもらう。	上位成果指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(目標)	28年度(目標)	29年度(目標)
	佐野市の歴史と伝統を知っている市民の割合	%	91.6	93.1	93.5	94.0	94.5

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費	財源内訳	単位	25年度(実績)		26年度(実績)		27年度(目標)		28年度(目標)		29年度(目標)		
			項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	
投入量	国庫支出金	千円											
	県支出金	千円											
	地方債	千円											
	その他	千円											
	一般財源	千円		1,215		1,162		1,682					
	事業費計(A)	千円		1,215		1,162		1,682		0		0	
	事業費の内訳	消耗品費、燃料費	千円	134	134	191	191	244	244				
		修繕費	千円	229	229	156	156	283	283				
		手数料	千円	11	11	11	11	12	12				
		自動車保険料	千円	34	34	33	33	34	34				
損害保険料		千円	72	72	72	72	73	73					
業務委託料		千円	444	444	400	400	1,022	1,022					
保守委託料		千円	278	278	286	286	14	14					
公課費		千円	13	13	13	13							
人件費	人		2		2		2		2		2		
のべ業務時間	時間		495		603		765		927		1,062		
人件費計(B)	千円		1,926		2,376		3,015		3,653		4,185		
トータルコスト(A)+(B)	千円		3,141		3,538		4,697		3,653		4,185		

事務事業名	葛生化石館維持管理事業	担当部	教育総務	担当課	葛生化石館	担当係	
-------	-------------	-----	------	-----	-------	-----	--

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	それまで郷土資料室の一部に化石を展示するという形であったものを、平成14年度に改装し、化石・鉱物・各種標本などを展示する「化石館」となった。平成17年1月拡張し、2月の合併により「佐野市葛生化石館」となった。
②事務事業を取り巻く環境(対象者や国・県などの法令等、社会情勢など)は事務事業の開始時期や合併前と比べてどのように変化していますか？	平成16年度学芸員の配置により、展示内容が充実した。平成17年度に博物館登録をし、博物館としての機能が整備された。平成23年3月11日発生震災以降節電に対する取り組みが厳しくなった。収蔵庫が少なく、資料は増加するため苦慮している。
③この事務事業に対して、関係者(市民、議会、事務事業対象者)からどのような意見・要望がありますか？	資料及び内容が充実している。まだまだ館の存在を知られていないので、PRすべきであるという声がある。

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
現状維持	

2. 事務事業の事後評価【Check】

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的(対象・意図)は、政策体系(結果)に結びついていますか？	
	結びつかない	理由・改善案 社会教育の場である施設の良い維持管理を図ることは、ひいては利用者の利便向上になり、地域の歴史と伝統を知り、郷土への愛着を育むことにつながる。
	②公共関与の妥当性 なぜこの事務事業を市が行わなければならないのですか？ 民間やNPO、市民団体などに委ねることはできませんか？	
	市が行わなければならない	理由・改善案 入館者に対し、地元石灰産業界への理解を促す使命は大きい。本施設は、化石資源の有効活用や葛生動物群、化石に特化した数少ない施設であり、教育施設として市が維持管理を行うべきと考える。
	③対象・意図の妥当性 事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す必要がありますか？	
	妥当である	理由・改善案 利用者に対し、施設や収蔵資料を良好な状態で維持管理することは当然のことであり、妥当である。
有効性 評価	④事務事業の成果向上余地 事務事業の成果は出ていますか？ 事務事業のやり方・進め方を見直すことで成果を向上させることができますか？	
	成果向上余地がある程度ある	理由・改善案 施設や資料の点検、温度・湿度管理を定期的に実施していくことでトラブル件数の減少を図る。
	⑤類似事務事業との統合・連携の可能性 類似の目的や活動形態を持つ他の事務事業がありますか？ ある場合は、その事務事業との統合・連携ができますか？	
	類似事務事業はない	理由・改善案 類似事務事業名
	*類似事務事業があれば、名称を記入	
効率性 評価	⑥事業費・人件費の削減余地 事務事業の成果を低下させずに事業費・人件費を削減することができますか？	
	削減の余地はない	理由・改善案 平成21年度は館長が配置され職員3名体制となったが、平成22年度はふたたび2名体制に戻り、人件費削減の余地はない。事業費も年々老朽化が進む中で減らすことは難しい。
公平性 評価	⑦受益者負担の適正化余地 この事務事業の受益者は誰ですか？ 事務事業の目的や成果から考えて受益者負担を見直す必要がありますか？	
	現在の受益者負担は適正である	理由・改善案 博物館法では、公立博物館は入館料、その他博物館資料の利用に対する対価を徴収してはならないと規定されており、例えわずかな入館料を徴収しても、それにかかる経費の方が大きく入館者も減少する可能性があるため、このままで適正と考える。
総合 評価	⑧本事業の休止・終了条件(本事業はどんな状態になれば休止・廃止、事業終了となるか？)	
	本事業は休止も終了もできない。	

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 今後の事務事業の方向性	(2) 改革・改善による期待効果	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題(壁)とその解決策																					
現状維持(従来通り実施)	廃止・休止の場合は、記入不要 ×の領域は改革改善ではない。																						
* 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。 (複数ある場合は、①②・・・と記入します。現状維持の場合は記入しません。)	<table border="1"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○	×	低下		×	×	
				コスト																			
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持		○	×																			
	低下		×	×																			